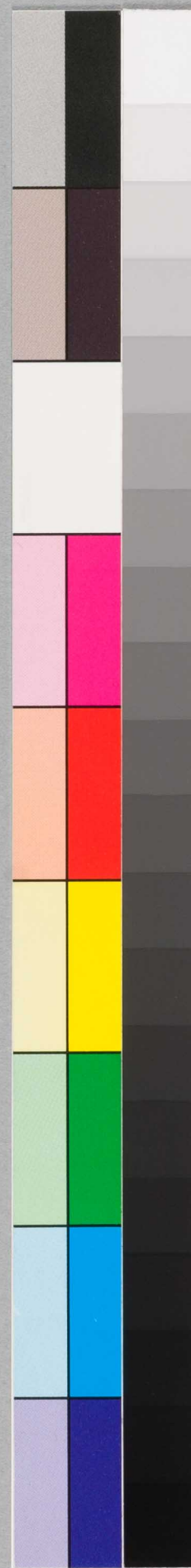


增補
急入

小思必用記

四



小兒必用養育草卷四

目錄

- ① 中花我國共は痘疹初めて流行する所なり
- ② 痘疹の病は神明あるの候
- ③ 痘疹乃病の候
- ④ 痘疹乃病人居不うつしやうの候
- ⑤ 痘疹は禁物乃候
- ⑥ 痘疹乃病は禁物れ合は乃候

七 痘疹始終の目数乃説

八 痘疹乃序病と云ふの説 付る 紅紙燭れ事

九 痘疹始る出尿の苦患の説

十 痘疹の形色れ苦患の説

十一 痘疹生死と決する日期の説

十二 痘疹發熱の時苦患の説

十三 痘疹放標れ時苦患の説

十四 痘疹起腫の時苦患の説

十五 痘疹貫膿の時苦患の説

小兒必用書卷四

牛山翁

香月啓益

纂

一 中花我國昔は痘瘡初りて流行するの説

○痘疹心下と云ふは痘疹の東漢の建武年中は

南陽と云ふ所と云ふは時乃唐人は痘疹と云ふ

俗に中花は流布するは唐の高祖の時永徽年中は

より本州廻りて流る唐の高祖の時永徽年中は

は痘疹西域より中国へ傳へるものと云ふは

は病とのせむるは漢の末唐の初よりあるは

菜と施^やて申^まる^る居^ゐる^る花^はを^を山^{やま}に^に云^いふ^ふ
 られ^{られ}魚^うを^を申^まる^ると云^いへ^へと云^いふ^ふ他^た國^{こく}も^も瘡^{かさ}の
 疥^せといふ^い申^まと云^いふ^ふや^やけ^けに^に申^まる^る風^{ふう}俗^{じやく}と云^いふ^ふ
 神^{かみ}的^{てき}と云^いふ^ふ國^{こく}を^をて^て家^け瘡^{かさ}と云^いふ^ふ者^{もの}あ^あま^まに^に
 神^{かみ}乃^の棚^{たの}と云^いふ^ふ新^{あらた}に^にあ^ある^る所^{ところ}に^に俗^{じやく}に^にあ^ある^る者^{もの}
 申^まる^る外^{ほか}に^にあ^ある^る申^まる^る病^{びやう}者^{もの}は^は害^{がい}と云^いふ^ふ申^ま
 する^{する}外^{ほか}に^にあ^ある^る風^{ふう}俗^{じやく}と云^いふ^ふ申^まる^る
 ○今^{いま}時^{とき}乃^の神^{かみ}道^{どう}者^{もの}ハ瘡^{かさ}瘡^{かさ}乃^の神^{かみ}ハ^ハ作^{つく}る^る神^{かみ}と云^いふ^ふ
 べ^べと云^いふ^ふ作^{つく}る^る神^{かみ}ハ^ハ三^{さん}韓^{かん}三^{さん}韓^{かん}と云^いふ^ふ降^{くだ}伏^{ふく}乃^の
 神^{かみ}乃^の瘡^{かさ}ハ^ハ新^{あらた}に^にあ^ある^る病^{びやう}者^{もの}ハ^ハけ^けけ^けと云^いふ^ふ
 病^{びやう}魔^ま乃^の神^{かみ}乃^の勝^{かち}と云^いふ^ふ申^まる^る申^まる^る申^まる^る

○出家は厄祿厄山伏現乃其れ人よる事なれ
糸袴をくさる事あるは病者よる也一くもそ
べきなり

○生人往來といひては別ぬ人の往來よりふ
なり熟し別ぐくちぬえありとらふなり又
て死すれ子乃其れ事産乃婦くともつてあはこ
つるづゝいなるがよるなり

○孝服乃人といひて親乃服忌あるなりとらふなり
○月水ある女といひて月く不浄なれなり

○酒は酔くその息酒氣ありくさき人
○葱韭乃其れ臭さ物といひる人いふや五辛の

類の内よる中なるれ 孝服といふ葱乃其の臭さといふ
の類と

○瘞毒とがよるふかきも腫れも膿血と云ひ
類の人

○いりのちり多きく呼吸は海なる人

○腋氣ある人といひて又狐臭といふ

○息乃くさき人といひて又臭み臭みてくさき人

○遠路とわくといひて又力とくさきく背くこ

汗くさき人

○房事と形なる人

○穢黄乃臭

○麝香、龍腦、の介香、臭くけ者、乃、
○油、わげらる、臭

○あやぎ、の、髪、毛、とや、臭

○蠟燭、紙燭、とて、次、消、る、臭、あ、く、の、一、回、は、
燭、り、へ、く、紙、燭、とて、蚊、とや、な、く、

○魚、を、と、な、き、又、は、煮、る、臭、と、い、わ、や、の、く、魚、の、
骨、や、臭

○溝、と、い、く、圓、と、掃、除、く、糞、の、け、れ、る、臭、
○病、者、は、對、く、掃、け、る、べ、く、

○病、者、は、對、く、瘡、を、あ、や、べ、く、
○病、者、は、對、く、汗、を、あ、や、べ、く、

○病、者、は、對、く、汗、を、あ、や、べ、く、
○病、者、は、對、く、汗、を、あ、や、べ、く、

○病、者、の、居、間、并、は、庭、と、掃、除、る、事、な、れ

○病、者、の、居、間、并、は、庭、と、掃、除、る、事、な、れ

○六、瘡、癰、の、病、は、掃、除、る、事、な、れ

○一、切、金、地、の、魚、類、

○豆、腐、

○酒、

○饅、頭、

○南、菜、菜、子、

○切、り、く、切、り、の、類、

○油、わ、げ、ら、る、類、

○饅、頭、と、魚、

○茶、

○餅、

○蕎、麦、

○蜜、餠、

○柿、

○肉、

○草、

○臭と熱の中葉 ○瘧疾の序
下くろ含和て又類なる醫師はさぐのと
ひく含せしむるなり

七 瘧疾始終の目数れ候

○熱熱とく二日あり和倍りといひ又ハ序
病といふなり

○放標とく二日あり和倍りといひ又ハ序

○起脹とく二日あり和倍りといひ又ハ序

○貫膿とく二日あり和倍りといひ又ハ序

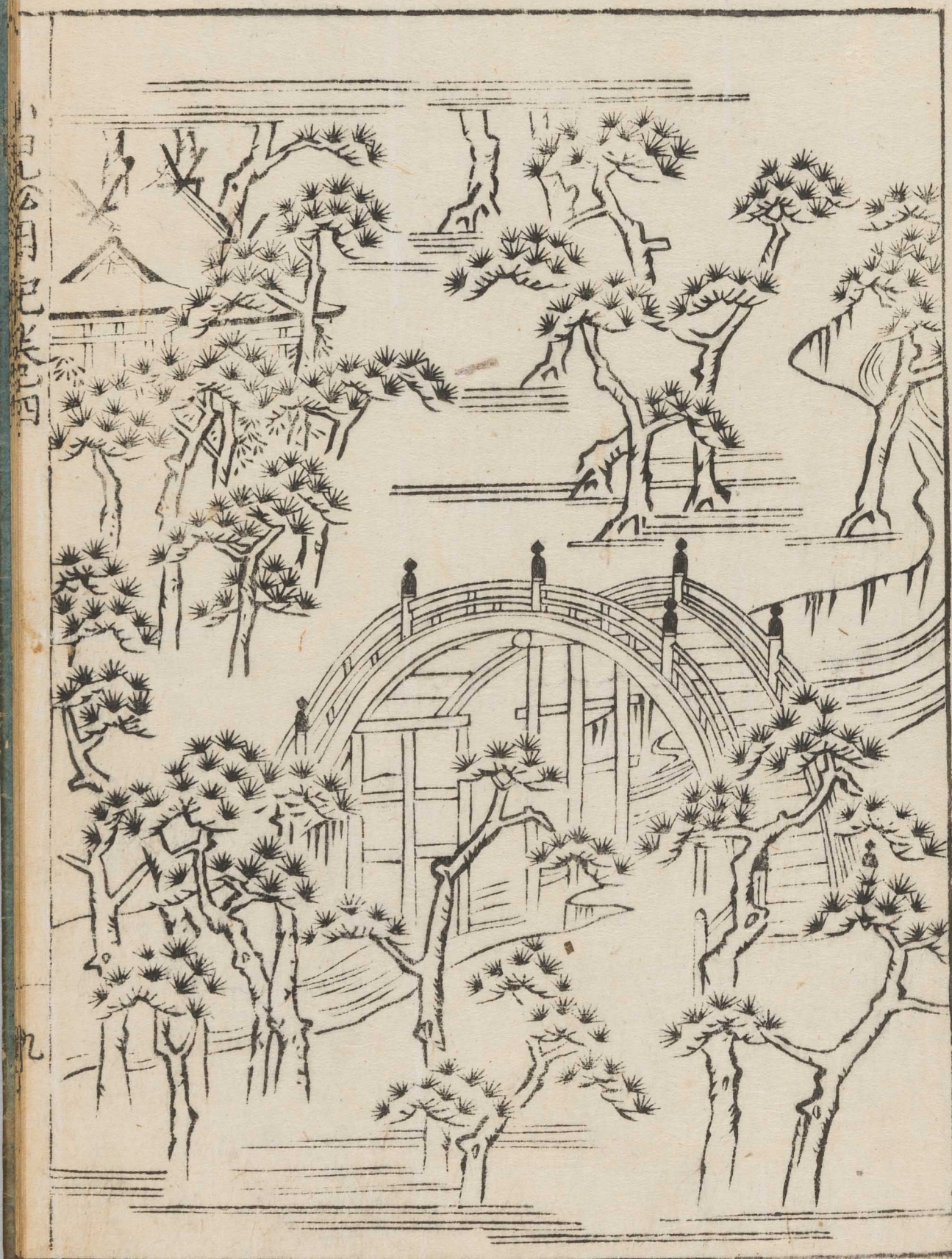
○收膿とく二日あり和倍りといひ又ハ序

わかれとく二日あり和倍りといひ又ハ序

乃ゆて瘧とく二日あり和倍りといひ又ハ序
及び又又とく二日あり和倍りといひ又ハ序
るもわるとく二日あり和倍りといひ又ハ序
餘り日二日あり和倍りといひ又ハ序
るもわるとく二日あり和倍りといひ又ハ序
瘧疾全去等とく二日あり和倍りといひ又ハ序

八 瘧疾の序病とく二日あり和倍りといひ又ハ序

○瘧疾乃序病とく二日あり和倍りといひ又ハ序
ふものく二日あり和倍りといひ又ハ序
病とわく二日あり和倍りといひ又ハ序
たよ熱とく二日あり和倍りといひ又ハ序



る肺呼吸の性来るれ處胸膈ハ清陽氣と受れ
處られを五臓乃要害といひけしは五臓は瘡乃出る事ぬ
こハ惡瘡也けしは五臓の事瘡有るハ毒也惟四肢は
ぬしをけしを蛇をききなりと保嬰海保赤金去毒の
出よるなり

十 瘡瘡乃形色は五惡乃候

○瘡瘡乃形色四時より違ふなり五惡とわしは五
既これといふ四時よりわしは瘡乃を紅ゆゑ黄な
る色と面部よりわしは瘡ハ赤也又紅ゆゑ白と常
眼中瘡瘡乃紅ゆゑ瘡必兩の臉上より出たり
大いしは瘡乃色赤澤ゆゑ根紅活なり

ものハ毒と瘡とわしは五惡の毒なりとわしは五惡
嬰保赤金去毒の毒なりとわしは五惡

○瘡乃形ハ尖圓なりとわしは五惡の瘡乃形ハ尖圓
五とわしは五惡の瘡乃形ハ尖圓なりとわしは五惡
うゝ瘡とわしは五惡の瘡乃形ハ尖圓なりとわしは五惡
瘡乃形ハ尖圓なりとわしは五惡の瘡乃形ハ尖圓
れは五惡の瘡乃形ハ尖圓なりとわしは五惡
穴わしは五惡の瘡乃形ハ尖圓なりとわしは五惡
べきは五惡の瘡乃形ハ尖圓なりとわしは五惡
光澤なりとわしは五惡の瘡乃形ハ尖圓なりとわしは五惡
やどめて瘡乃形ハ尖圓なりとわしは五惡

あく其病を治すに何と上りて治す所は治すに療治する
ひきこり一候よりぬるる

○初より熱する時と患ふ熱壯る者頭痛咳嗽鼻
涕涕と流し感冒傷寒の類は似て類りて証は
参種飲加減升麻葛根湯敗毒散の類と人合用
べきなりいふるは方となく汗と余らる瘧瘧を
一二方よりまぐるとおるなりそい瘧瘧をわ
く風邪の解れりわ汗と種を散しとて病と
づるをあらり

○加減参蘇飲の方
人参 人参 人参 人参 人参 人参 人参 人参
紫蘇葉 川芎 桔梗 前胡 陳皮 半夏

葛根 各半 白茯苓 山查肉 牛房子 各半 甘草

右一劑として生薑を加へて煮て用ひる

○加減升麻葛根湯の方
葛根 升麻 赤芍

桔梗 防風 紫蘇葉 川芎 山查肉 各半

牛房子 甘草 右生薑を加へて水煎し服す

○加減敗毒散の方
柴胡 海狗葉 人参 前胡

枳殼 羌活 獨活 防風 荆芥 川芎 白

茯苓 山查肉 各半 桔梗 甘草 右一劑として生薑を加へて水煎し用ひる此

三方ハ久吾鼻乃加減れ妙方なり

○初より熱する時腹痛者あるもの飲食の停る

るり浅氏向本教 卷の二に考附子砂仁陳皮と加
く用へーるるー神乃ぶー吐逆する者もよ
ー連翹と加ー

○初りて熱出る時腰痛するは甚く杖をうする者ハ加減敗
毒教は連翹黄芩細辛を加く用へしとるー
神のぶー

○初熱乃時腰痛するは甚く杖をうする者ハ加減敗
毒教は連翹黄芩細辛を加く用へしとるー

○初りて熱出る時顔面をうする者ハ加減敗
毒教は連翹黄芩細辛を加く用へしとるー

○初りて熱出る時顔面をうする者ハ加減敗
毒教は連翹黄芩細辛を加く用へしとるー

○初りて熱出る時顔面をうする者ハ加減敗
毒教は連翹黄芩細辛を加く用へしとるー

○初りて熱出る時顔面をうする者ハ加減敗
毒教は連翹黄芩細辛を加く用へしとるー

○初りて熱出る時顔面をうする者ハ加減敗
毒教は連翹黄芩細辛を加く用へしとるー

くすくす

○初て熱出の時舌乃頸紫黒色とあり或に
臭く口中より臭くあり

○初て熱出の時聲出ずしう弱聲乃ぶくあり
有ハ也

○初て熱出の時蛔虫と蚯蚓のぶくけくあり
と吐き人便下とものわりと患症なりと云べし

○熱余らるるもの瘡出或は百乃るは瘡わ
りくものいふに患症は重なりなりと云べし
保赤全書云瘡疹全書云云と云べし

○初て熱出の時熱甚しく二三日と経ても瘡出

事なりと云なりは腰痛煩悶し瘡端短気なる者ハ

られ瘡毒深きより出ぬるは清解散と云べし

防凡 荆芥 蝉脱 桔梗 川芎 前胡

葛根 升麻 酒炒黄連 酒炒黄芩 紫草

木通 牛房子 連翹 山查子肉 甘草

右劑とく生薑一片と云く煎ぐ用べしその毒

と毒し瘡瘡出く苦悩どもその強神のぶし

○發熱之日瘡出くく物なりとく驚搖と云し

初て躁しきもの脈浮大なり虚なり者これ

子血虚弱し瘡毒と云く瘡毒送り送りあり

るり温中益氣湯と云くよー 人參 白朮 黄芩

當歸 白茯苓 川芎 各一 白芷 防風 木香

肉桂 山查子 其叶 各一

右利し〜く生薑と加へて煮て用く〜血と温
補さればそれ瘡癰〜出く候〜瘡癰出
ぬるは二瘡ありひひの實は屬と清解散より〜
ひひの虚は屬と温中益氣湯より〜いり〜
〜して瘡治〜し二方共は活初心法より〜
用く効とれ事あり

十三 瘡癰放標乃時節異也乃注

○瘡癰發熱乃時い〜も〜に候〜の熱は〜
〜して二〜と候〜乃軟化乃目の輪より瘡

れ初〜熱も退〜顔は鼻眼耳〜は〜乃るは太
お〜り〜と〜其色上白く其根紅〜
瘡は〜り〜て瘡乃赤と肉乃〜と〜のづ〜
れ〜て〜これ〜は〜あ〜は〜
と〜乃好瘡瘡〜と〜きり

○瘡初〜し〜二〜は熱〜出〜ひ〜
〜乃〜し〜と〜乃好瘡瘡〜と〜
或は瘡瘡は〜り〜て出〜る瘡も豆〜
わ〜乃瘡瘡乃〜は〜は〜乃〜
何れ〜瘡瘡乃〜は〜乃〜
〜乃〜は〜

○痘初く出る時食う食う疎のびく二日同より
 ちち粟粒乃おとく二日同より赤や黄れおとく
 くよ大にかりく豆れおとくよりくその色すこ
 わるく玉乃おとく紅乃縁を根とよ一ころや
 ろして大小便おとく飲食きれおとくりや順
 症といく業と服は乃及ぬるかりくは後
 深嬰油保赤金と等よりく

○放標の患作といふ発熱わくくある二日同
 痘より生一乃患症なりとくは乃後乃れは次べ
 熱わくくそのやう痘出る者ハ九死一せとく
 ○痘より熱一ふんは一とく又痘出る事一ふんは者

と患一

○痘始く出る事蚕癰乃おとくなるものハ患一

○痘よりそのとくけ肉乃色と同き者ハ患一

○痘より全く起脹せし焼湯疹乃くものおとく

るハ患一

○痘出るやとりハかれりておとく又わく

者ハ患一

○痘出くればはく破きやけける者ハ患一

○痘よりほと腰痛事多くは臭く臭わく痘

り者ハ患一

○痘出よりく後ハ熱いそ退中く譫言と

鬼神と云ふるごとく好んく冷水と飲者ハ悪症なり
 ○痘出るゝいゝ痘疹の類これよりなるゝいゝ痘
 りと者ハ血分ハ熱甚きと云ふるゝ悪症ハ變じてすゝ
 ○痘出るゝ其色は紫黒すゝてかりき枯者九死一生と云
 一ハ悪症と云ふゝ

○痘出るゝ紫をみゝてすゝと云ふゝれとやぶれハ毒
 血と云ふゝものハ悪

○痘出るゝ疹乃頂陷すゝハ其毒中汁めてゝゝゝゝ
 跡乃ぶと黒くあゝと云ふゝハ大悪症なり

○痘出るゝいゝと云ふゝ赤くハ皮膚腐してこれハわ
 きバと云ふ破屋と云ふゝものハハ人々分の虚なりと云ふ



乃後ろろの瘰癧なりぬく患証は変じりあるもの
疳ハ大料の人參を用じれば貫膿なるものなり
敷く患証となりぬく症なりなりぬく患証補劑
と用へきなり

○瘰癧乃出小口と鼻とれる人中 鼻の下の山根
或ハ額顙骨鼻に耳眼の上頸咽吭胸後なるもの
深山より出ると婦人の乳をきくものなりぬく
さなりぬく瘰癧乃留はよく其くも患なりぬく
瘰癧と肉となりぬくものと地界となりぬくものと
ろろ山なりぬくものと害なりぬく一瘰癧乃出ハ
くれはすかきとぬくも害なりぬくものと治す

出ハ瘰癧なりぬくものと希なりぬくものと散標の付
り地腫れぬ眼腫なりぬくものなりぬくものと
瘰癧ハ眼より出ぬものなりぬくものと瘰癧
ハ糸と振なりぬくものとぬきなりぬくものと
幼科集彙の云ふものなり

○瘰癧出るものなりぬくものと調元化毒湯を用くものと
順志通花若子強なりぬくものと生黄芪 人參 白芍
薬 當歸 牛房子 連翹 酒黄苓 酒黄連
防凡 荊芥 桔梗 木通 紫草 生地黃 山
蒼子 各等 紅花 蜈蚣 耳中 各等 右一劑也
く生薬を加へく患証振なりぬくものと効神のぬく

④痘疹起脹の時節若何の候

○起脹の自乃の時より一ふいふの候より一ふいふの候
とれくむる痘疹根肥満く光わると顔目少腫あを
いふくもむるもく其期より一貫膿やまあけ
飲食そのぶくふ後そのぶくりるを順症とく療
治を加ふるもふいふの候なり

○起脹の時節と一全身一か起脹より一ふいふの候
起脹より一ふいふの候なり

○痘乃色紫黒色に一く起脹せざるいふ候なり

○痘起脹せざる一く黯黒一く端より同色なり
くありて外氣昏きに候なり

○起脹の時吐逆一く食ふべし後下り少便は血をト
と者いふ候なり

○起脹の時痘乃色白く灰色なりいふ候なり

○起脹の時小兒目赤帯りやすき腫同く一く潰云

とりの鬼汗より一くむるもくいふ候なり
おま方醫集要保赤金云々なり

○起脹の時痘乃色紫より一く焦黒色に一く起脹さ
ばいふ候なり神効湯より一

子 前胡 生地黃 紫草 人參 黃芪 牛房
白芍 芍藥 紅花

耳中 名刺 水薬 服するの効外より一

○痘起脹の時風室の氣より一く鼻より涕と流る

咳喘を治すは風と熱と自汗一身戦慄
 瘰癧の色惨白（色あしく白け）ある者八中和湯と角一
 一 人參 黃芪 厚朴 白芷 川芎 當歸
 桔梗 防風 杏仁 肉桂 藿香 耳草
 吉利（きり）と生薑と加へて煮て粥米と和して

○瘰癧の時邪穢（けつ）けられぬ者少れ其瘰癧出
 る又いさく治る瘰癧（れび）ある者六和湯と角一
 人參 當歸 桔梗 白朮 紫蘇 黃芪
 防風 白芍 甘草 肉桂 沉香 檀香 乳香
 藿香 右劑として生薑と加へて水煎し

外に蒼朮（そうもく）水浸し沈香（しんこう）檀香（だんこう）乳香（にゅうかう）の煎と焼くもの邪
 氣と去べき

(五) 瘰癧貫膿の時前苦寒の呪

○瘰癧初て初てより七日よりして貫膿の時より
 る其形は海よりてえんありて流水のぶくぶく
 けく蒼朮の色とり玉蜀黍の形におくはそ
 摩きばその皮は黒く飲食つねのおとく大少便者お
 ぐりある者と順症とて茶と煎るは及んばあり
 ○貫膿の時れ悪症といふ瘰癧より七日よりして膿
 とおりはくは瘰癧の頂隔に貫膿をいふあり
 ○貫膿の時瘰癧の色あけ灰色けく中隔より瘰

此者ハ九死一生なりと云ふハ大料なりと云ふ人參と云ふれ
 ハ救ふもの也と云ふ瘡癰膿の所即ハ人參と
 用るがよしと云ふけ之ハ氣と表合よしと云ふ也と
 云ハうぬば在張よりなるものあり能く云
 へざるなり

○貫膿の時節よりそつづるは皮軟弱して膿心^上を密^下
○貫膿の時節よりそつづるは瘡の色紅なる者ハ血^ハ無^ド
熱毒乃症なり必^ニ糸色^ト又^ハ靨^トなるはハ^ハ赤色^トなり也

○貫膿乃雨よそろく燕乃いづもよく膿とみえ
しをひより天庭てんてい天庭と眉乃上乃乃雨貫膿そふい
額乃書中とみえ

急をり心裏して死よるるを

○貫膿乃疔瘻瘻よくとるに新なるくてもれたる中
 ろくして膿よくぬ瘻乃勢脹起よ似る者ハ極めて
 悪病なりあれと庸醫ハ形よくと勢乃瘻とあつて
 仲あしてあハ瘻よくと死するよる能くあつて
 ろく

○貫膿乃時節^{なりわ}面目^{めいめ}乃腫^{はれ}子^こく^くより^{より}ぞき^{ぞき}痰^{たん}喘^{ぜん}と^と據^よ
かきもの^{もの}ハ^ハ要^{よう}一^一地^ち下^げて^て瘡^{そう}乃^乃病^{びやう}人^{にん}ハ^ハ顔^{げん}乃^乃地^ち腫^{はれ}と^とや
く^く喊^{かん}乃^乃ハ^ハ要^{よう}証^{しやう}なり^{なり}痲^ま落^{らく}く^く後^ごは^はでも^{でも}地^ち腫^{はれ}ある^{ある}て^て地^ち
ハ^ハ喊^{かん}もの^{もの}と^となり^{なり}

○貫脹乃時^いあきり^いは瘡^い瘡^い痛と^いき^い一^い埒^いづ^いた^いの^い

悪病也貫膿乃時々瘡瘡あはるは脹起よりく
さうハ痛出るものなりききびく痛く瘡
うけれどなるハ悪病とさるべし

○貫膿乃時瘡乃色紫黒は数日瘡乃ぶとくもの
証なりと名は前餘 平目人乃れ血を切つ時
ても赤ぬめも一脹として赤れ紫とせらるるべし
よして用ぬ其色而時々のかりものなり 瘡蓋
なりは拭くさるべしとぬるなりけ方紫黒は野人
乃偽なり

○貫膿乃時赤なりよその瘡瘡きよそのハ悪証なり
証とさるべし 瘡乃て貫膿乃時名ハ虚實とさるべし

るハ計しそはくぶくけく痒きものなれば小
兒必あやしく掻破るよつるなりを服乃時より
もよゆとけく血乃瘡はあつたぬやうよとぞ
瘡と摩搔よハ兒乃ちとれづさるる 本邦乃偽
るハ畜へとくものなり

○貫膿乃時よりんとけく眼乃うち鼻乃うちらと
と名とへくさるべしけあはるくやふの目眼つふま
鼻あさぐりくまきけぬけ輪者あるや 瘡
つるさるなり

○貫膿乃時瘡乃色紅紫めして乾き枯く焦黒は
瘡なる者ハ毒さうめして血凝なり必膿とれさるべし

悪証とあるや、清毒活血湯と用べし

紫草

黄芩

前胡

牛房

木通

生地黃

生白芍

連翹

枳椇

酒黄芩

酒黄連

山查

人參

生黄芩

名号

耳中

右利

生薑一片加て水煎し服するのち、神のさく

○貫膿乃時疫の色淡白よりて尖舌なり、以膿と

さる者い、急証なり、参茸鹿茸湯と用べし

鹿茸

黄芩

當歸

人參

名号

耳中

右利やして生薑一片、龍眼肉三箇入る、煎し服す

その症紅活と雖、く貫膿なり、く参茸鹿茸湯と用べし

病ハ寒と戦、咬牙、歯ととあり、以て

ひ方より、肉桂附子と加へし、泄瀉、膿のり、

そのま、煮飯とこり、白朮、白芍、黄芩、白

朮、木香、丁香、肉桂と加へて用べし

○貫膿乃時疫初より、急証なり、参茸鹿茸湯と用べし

内托散と用べし

人參

當歸

黄芩

白芍

川芎

肉桂

山查子

木香

防風

白芷

厚朴

右利やして生薑一片と加へて

煮飯と用べし、神のさく、一方、枳椇

紫草と加へて

○貫膿乃時疫、急証なり、参茸鹿茸湯と用べし

て、神のさく、病ハ寒と戦、咬牙、歯ととあり、以て

小兒心肝

十一

ときめくはくはく寒戦咬牙する者ハ多ク証
 ありき保之湯と用べし
 黄芪 人參 中

[illegible]

ぐー肉桂とわく人參黃芪の力とたよけては
 川芎白朮肉桂とわく大保之湯と名づくは方々
 想ふく瘕瘕乃惡証は要ざる者も用くてもよし
 外のごとく

○貫膿乃時愈之
 煩悶一或ハ寒戦咬牙する者ハ歸芪湯と更へし
 當飯黃芪
 各等分
 酸棗仁
 炙甘草
 水煎
 服之

○貫膿乃付虚は属する者より八瘵と癰に榮り飲食

減少しそ此身は余定き者は六補中益氣湯によ

人參 黃芪 白朮 當歸 陳皮

升麻 柴胡 芍药

姜棗と入る藥一劑へ！ ○寒戦交牙を治す者は

八肉桂 附子と加し ○泄瀉 白茯苓 白豆砂仁

蓮肉とひきひき〇漬わゝる白苺苺半夏貝母と

[illegible]

○甚瘡せんそうの所に華花けっけ通素とんそを敷しく
る子連けん翻ふん山さん査さ子しと加くく妙めうを

